

しまねの 自然

発行 島根県自然公園協会
〒690-8501 松江市殿町1番地
島根県環境生活部
景観自然課内
TEL 0852(22)6172
FAX 0852(26)2142

第34号 平成17年3月



西中国山地国定公園
安蔵寺山 大ミズナラ

自然公園等の施設整備	2
自然公園の見どころ	3
「みんなで守る郷土の自然」新規選定地域紹介	4
自然再生推進事業	4
NACS-J 自然観察指導員講習会	5
日韓青少年自然保護交流事業	5
自然保護関係表彰者紹介	6
県内各地で開催された自然観察会等	6
自然公園指導員活動の一コマ	8
島根県自然保護レンジャー第11期スタート!	8
ふれあいの里奥出雲公園のリニューアルについて	9
島根県に赴任して	10

新しい自然公園施設が完成しました!

美保関灯台周辺の整備が完了しました。

島根半島最東端の突端部（八束郡美保関町）に大山隠岐国立公園の地蔵崎園地があります。園地内には、明治31年に点灯した山陰で最古の美保関灯台があり、異国情緒あふれる白亜の外観が特徴です。また、世界灯台百選にも選ばれ歴史的価値も高く評価されています。

地蔵崎園地の魅力は、なんとといってもその絶景にあります。大山の稜線から登る初日の出や晴れて見通しの良い日は、遠く隠岐島を望むことができます。

その眺望を多くの人に楽しんでもらえるよう、平成14年から15年にかけて、園地の整備を行いました。展望デッキをはじめ、岬の南側の照葉樹林内には、周回できる遊歩道を整備しました。また、遊歩道を透水性舗装にすることや木製栈橋を設置することにより車椅子でも園内を散策できるようにしました。

そのほか、芝生広場や休憩所も設けましたので、是非一度お越し下さい。



枕木山に公衆トイレを整備しました。

枕木山は、松江市の北側に衝立のように連なっている北山山系を代表する山です。この枕木山を中心に美保関町千酌から北山山系を縦走し鹿島町上講武に抜ける中国自然歩道（北山縦走コース）が以前から整備され多くの人に親しまれてきました。利用者に快適にハイキングを楽しんでもらうため、枕木山山頂の駐車場内に公衆トイレを新築しました。



赤浦海岸の鋼製階段を改修しました。

平田市坂浦町にある赤浦海岸は、浜辺の岩や石などで、浜全体が赤っぽく見えることから、この名がついたといわれています。また、葉師如来の出現地としても知られています。

以前より坂浦町から海岸線をとおり小伊津町へ抜ける中国自然歩道（赤浦海岸コース）を整備してきましたが、コース内の鋼製階段が塩害により腐食し、利用に支障をきたしていたため、改修工事を行いました。天然石の赤、海の青、山の緑のコントラストが楽しめる海岸です。是非散策にお越し下さい。



自然公園等ボランティア整備事業

安蔵寺山に600年生きる大ミズナラを守りたい

安蔵寺山は、日原町、六日市町、益田市（旧匹見町）にまたがる、標高1263mの山です。西中国山地国定公園の西端部に位置し、その稜線から頂上にかけては、まとまったブナ林を見ることができます。

毎年、ブナ林観察会やキノコ学習会、また紅葉を楽しむにたくさんの人が訪れるこの山に、幹の周りがおよそ5mにもなり、推定樹齢600年のミズナラの巨木があります。

この大ミズナラは、林野庁が国有林において指定す



(資材運搬) 肩にずっしり



(組立作業) 着々と形が…

る「森の巨人たち100選」の中国管内5本のうちの1本に選ばれており、地元や登山愛好者に親しまれている一方で、近年の登山ブームから多くの登山者が訪れ、地表に露出している根が踏みつけられてしまうことによるダメージが心配されていました。

このたび、県の平成16年度自然公園等ボランティア整備事業として、根を踏むことなく大ミズナラにじかに触れ、より身近に親しんでいただけるように、その周りに木道を設置しました。

10月10日（日）、前日からの雨が止まず、かなり冷え込む悪天候の中、地元ボランティアの皆さんの手で、資材運搬及び組立作業を行いました。

足下がぬかるみ、所々つづら折りになっている坂道を、5～15kgの木材を持って何度も往復するというきつい運搬作業となりましたが、皆さん黙々と運んでいただきました。

組立は、樹木医さんからの指導をもとに、根を傷めないように配慮しながら、降りしきる冷たい雨の中、大工さんを中心に、ボランティアの皆さんの懸命な作業のおかげで順調に進み、大ミズナラを囲む形で立派な木道が出来上がりました。

600年という長い月日を生きている大ミズナラを、ぜひたくさんの方にさわって感じていただければと思います。どうぞ出かけてみてください。

また、県では、地元で熱心に自然公園や中国自然歩道の保全活動等を行っていただいている団体の皆さんに資材を提供する形で、平成17年度もこのような整備事業を行っていく考えです。

(全景は表紙写真をご覧ください)



皆さんの力で無事完成!!

「みんなで守る郷土の自然」新規選定地域紹介

身近にある優れた自然を将来にわたって保護していくために「みんなで守る郷土の自然」の地域選定を昭和62年度から行っています。

私たちの身近な生活環境の中に点在する良好な動植物の生息地や、地域住民のシンボルとして親しまれている自然環境を県が選定し、地域で保全・保護することにより、住み良い地域社会を形成することを目指しています。

平成16年度には新たに2箇所を選定し、あわせて51箇所となりました。新規選定した2箇所を紹介します。

【八千代川カジカガエル生息地】

簸川郡大社町鷺浦地区では、^{うさぎ}鷺小学校児童と八千代川の自然を守る会の会員で、八千代川の清掃活動、カジカガエルの生息調査を行っています。発生時期には自然観察会を行い、保護活動を活発に行っています。



(カジカガエル) コロコロコロ・・・美声です

期には自然観察会を行い、保護活動を活発に行っています。

【川本町イズモコバイモ自生地】

川本町谷戸地区で、地域住民や川本町自然大好きネットワークの会員が協力して、島根県固有種で絶滅の危機にあるイズモコバイモ自生地の環境整備や盗栽培防止に向けた普及啓発及び保護活動を行っています。



(イズモコバイモ) 可憐な花です

開花時期には自然観察会を行い、保護の重要性を訴えています。

自然再生推進事業

守れ！増やせ！

三瓶のウスイロヒョウモンモドキ

草原性のチョウ「ウスイロヒョウモンモドキ」は中国山地の草原に局所的に分布しますが、近年減少傾向が著しく、既に多くの個体群が絶滅しました。島根県では、三瓶山が唯一の生息地であり、かつ国内分布の西限でもあります。

過去には三瓶山一帯で見られましたが、生育地である草原環境の変化により、その生息数は激減し、現在では女三瓶山頂の限られた範囲にしか生息していません。島根県の絶滅のおそれのある野生動植物をまとめた「改訂しまねレッドデータブック」でも、最も絶滅の危険度の高い「絶滅危惧Ⅰ類」に分類されています。

島根県では、このウスイロヒョウモンモドキを保護し個体数を増やすために、平成14年度から「ウスイロヒョウモンモドキ復活事業」として多くの団体・人々と協力しながら、以下のような活動に取り組んでいます。

島根大学、近畿中国四国農業研究センターと共同で、個体群のモニタリングや人工増殖への取り組み、生息地である草地の適正な維持管理方法の研究などを進めています。

また、新しい生息地をつくり出すために、ウスイロヒョウモンモドキの幼虫が好んで食べるオミナエシやカノコソウの植栽や、草刈り・灌木の除去など生息地の範囲拡大に向けて、大田の自然を守る会、NPO法人緑と水の連絡会議、地元ボランティアの方々と一緒に活動を行っています。



幼虫と食草となるカノコソウ



草原再生のための草刈り作業

この他にも、県内1カ所にしか生育していない浮葉植物「オニバス」や、野生では絶滅してしまった水生シダ植物「デンジソウ」の復活事業にも取り組んでいます。

NACS-J自然観察指導員講習会・島根県開催

第352回NACS-J自然観察指導員講習会・島根県が9月18日(金)～20日(日)の3日間、国立三瓶青年の家で開催されました。県内を中心に中国5県から68名の参加があり、講師陣とスタッフを加えた総勢92名により行われました。

1日目は野外実習と室内講義を行い、その後の懇親会では同じ目的をもった者同士、時間を忘れて盛り上がりました。

2日目の野外実習は、地元の自然観察指導員が講師となって3つのフィールドに分かれ、受講者がローテーションで各講師の講義を受ける方法で実施されました。このような講習方法は今回が初の試みでしたが、スムーズに行うことができました。

最終日は個別野外実習です。5～6名ずつの班に分かれ、それぞれが指導員役となり他の班員を参加者に見立てて、実際にミニ自然観察会を行うものです。皆さん、朝早くから観察会のテーマ探しとプログラムづくりに四苦八苦しながらも、前日の講義での「“解説”をしてはいけない。参加者を巻き込んで一緒に観察しよう」とのアドバイスに気を配りつつ、見事なミニ観察会を行いました。

その結果、68名全員が自然観察指導員の認定を受け、そのほとんどの方が島根県自然観察指導員連絡協議会の会員に登録されました。

天候が心配されましたが、3日間とも晴れてスケジュールどおりに野外実習を行うことができました。2泊3日で計18時間の講義時間数というハードさに参った受講者もいたようですが、充実した時間を過ごせたという声も多数聞かれました。

今後、新自然観察指導員として島根県の自然のすばらしさを多くの人々に伝えられることを期待しています。



(参加者によるミニ観察会の風景)「じっくりよく見てみよう！」

日韓少年少女自然保護交流事業

平成16年度日韓少年少女自然保護交流事業が7月29日(木)～8月2日(月)の4泊5日の日程で、国立三瓶青年の家で開催されました。この事業は、平成11年3月に島根県立三瓶自然館と韓国の慶尚北道自然学習院(現:自然環境研修院)との間で「自然保護交流に関する協定書」が締結され、その具体的交流の一つとして、相互に少年少女自然保護交流団の受入を行っています。今年度は韓国の少年少女が島根県を訪れました。

県内の参加者は小学5年生から中学3年生を対象に公募した30名です。言葉や習慣の違いはあるにせよ、昨今の韓流ブームのせいも、すぐに韓国芸能人の話で打ち解けあう姿が見られました。

前半2日は天候に恵まれ、予定どおりのプログラムを行いました。特にふれあいの里奥出雲公園では、両国の将来にわたる“自然保護交流”を約束して参加者全員で記念植樹を行い、韓国側から大変高い評価を受けました。後半は台風の影響で悪天候が続きましたが、日本側参加者の家庭でのホームステイを楽しみ、最終日には全員が元気な顔でバーベキューやキャンドルサービスによる賑やかな送別会を開催しました。



(ふれあいの里記念植樹風景)「大きくな～れ！」

次世代のために地球を守り、自然を守っていくことは我々の責務であり、それは国境を越えて取り組むべきものです。参加者がこの経験を活かして両国の架け橋となり、将来につながる交流に向けて活躍してくれることを強く願っています。

なお、韓国から島根県に派遣されている国際交流員の方にボランティアで通訳業務を行っていただいたおかげで、両国の意思疎通や情報伝達がスムーズに行えました。紙面を借りて厚くお礼申し上げます。

自然保護関係表彰者紹介

平成 16 年秋の褒章において、自然公園指導員の安田禮司さん（益田市・69 才）が藍綬褒章を受章されました。

安田さんは、昭和 59 年に自然公園指導員委嘱以来長きにわたり、西中国山地国定公園を中心とした活動の中で、広く一般の公園利用者に対する適切な指導と、自然保護思想の普及啓発、自然公園内の動植物保護や美化清掃に努められ、事故防止にも貢献されました。

また、知事が委嘱する自然保護レンジャーを、制度が発足した昭和 59 年度から平成 14 年度までお

務めいただき、自然公園のみならず中国自然歩道や自然環境保全地域など幅広く、積極的にご活躍いただきました。

一方では、高校時代から始められた登山の豊富な知識と経験を活かして、一般登山の普及や、そのマナー指導にも取り組まれ、(社) 日本山岳協会などの要職を歴任されるなど、全国的な登山教育の普及への功績もまた顕著なものがあります。

穏やかな語り口の中に秘められた安田さんの、熱意あふれる精力的な姿勢は他の模範となるべきものです。

これまでの多大なご功績に敬意を表するとともに、今後のますますのご活躍を期待します。



受章当日（平成 16 年 11 月 15 日）

県内各地で開催された自然観察会等

[チャレンジエコスクール] 宍道湖でシジミ獲り体験 [出雲市]

出雲科学館では、「チャレンジエコスクール」という小中学生対象の環境シリーズ教室を開催しています。そのエコスクールの 23 名の子どもたちが、6 月 26 日、宍道湖に出かけ、シジミ獲りを体験しました。子どもたちは湖に入り、シジミをつかんでみては、みんなで大きさを比べて楽しみました。船に乗り、ジョレンを使ってシジミ漁にも挑戦。ドキドキしながらうまくバランスを取り、貝をすくい上げることができたときには大喜びでした。

講師は日本シジミ研究所の皆さんです。ヤマトシジミはプランクトンを食べて水質浄化の役割を果たしています。その説明を聞いた子どもたちは新しい発見に満足そう。「シジミは宍道湖の水をきれいにしてくれるから大切な生き物だね。」と感想を話してくれました。子どもたちはこの日の体験を通して宍道湖の自然の豊かさに触れ、環境を守ることの大切さを心に刻んだようです。



シジミいるかな…?

日御碕の自然をまるかじり！

薬膳料理 ～秋～ [大社町]

日御碕公民館で身近にある自然にふれ、関心を持つ目的で開講している草花講座。12月13日、講師に木元典子さんをお迎えし、薬膳料理を教えていただきました。参加者は子どもから大人まで12名。「薬膳料理を家でも作ってみたいくて・・・」「薬膳料理を食べてみたかった」と、いろいろな思いで参加されました。今回はたっぷりの野菜にナツメ、クコの実などの体を温め、血の巡りをよくするもの、残り野菜も無駄なく使っておいしくて体にやさしい“薬膳鍋”と“紅花・生姜ごはん”を作りました。家の周りの草花、こんなに食べることができるのかと思うと楽しくなり、また自然の恵みに感謝して、自然からいただく力の素晴らしさを再び知ることができました。



薬膳鍋に挑戦！

秋 満喫 in 安蔵寺山 [日原町]

11月7日(日)、日原町で「秋 満喫 in 安蔵寺山」と題して、ふれあいハイキングとキノコ学習会が開催されました。県内外から参加した約100人が2班に分かれ、山頂までの登山といろいろな種類のキノコの学習を行い、豊かで美しい自然の中で秋の一日を楽しく過ごしました。

ハイキングでは紅葉を踏みしめながら登山し、山頂で楽しく昼食を食べた後、西中国山地の山々を眺めました。

キノコ学習会では藪の中を歩きまわり、いろいろなキノコを集めました。今年は、ナメコやムキタケ、ブナハリタケだけでなく、ヤマブシタケやウスヒラタケなどの珍しいキノコのほか、カエントケやツキヨタケ、ニガクリタケなどの毒キノコも見つけることができました。昼食時には、キノコ汁とキノコ炒めの試食をした後、講師からキノコの見分け方や調理方法、保存方法などについて学びました。



食べられるキノコは…？



いっぱい集めるぞ！



たくさんありました。

自然公園指導員活動の一コマ

エコツーリズム大学隠岐の自然を学ぶ

自然公園指導員 青砥 和彦 (隠岐の島町在住)

昨年10月24日 大満寺山より鷲ヶ峰を経て自然回帰の森を歩く自然観察会が行なわれました。これは新しく隠岐の島町が、隠岐の人たちに地元の自然のすばらしさ知ってもらい将来的にエコツアーのガイドが出来るようになればという活動です。今まで隠岐では、名所景勝地を広い視野で見る観光が中心でした。しかし隠岐には、身の回りの1メートル四方に目を向けてみると、今まで気がつかなかった隠岐特有の動植物、昆虫、岩石などの自然がたくさんあります。こうした小さな視野での知識をたくさん集めて、より大きく視野を広げていく自然の楽しみ方が、これからの隠岐の観光の一つになっていくと思います。今回の観察会には、さまざまな方面からの参加者が集まり自然公園指導員の方の案内で、標高500メートルぐらいですがミズナ



オニヒョウタンボク



身近に自然がいっぱい！

ラ、イタヤカエデ、ヤブニッケイ、ヒサカキ、クロベ、オニヒョウタンボクなどの北方系・南方系に加え大陸系や亜高山帯の木々の混生する隠岐ならではの林を歩きました。その中で隠岐特有の動植物などを手で触れながら観察し、岩石では隠岐玄武岩や日本最大級の柱状節理など説明も聞き、参加者一同「へー」の連発でした。また悲しい盗採による危機的な植物の話などは、今まで知らずにいた事実でした。このような活動を通して一人でも多く、隠岐の人たちが地元の自然を楽しむことが出来るようになれば、国立公園隠岐をより深く広くたくさんの人に伝えながら、守っていけるようになると思います。

島根県自然保護レンジャー第11期スタート！

研修会を開催

昭和59年度から第1期が始まりました自然保護レンジャー制度も20年を経過し、平成16年4月1日からは第11期として121名(新規4名を含む)の皆さんに委嘱してスタートしました。

皆さんそれぞれ熱心に活動していただいている中、11月20日(土)に、大田市の三瓶自然館サヒメルにおいて、「平成16年度島根県自然保護レンジャー研修会」を開催しました。

松江自然保護官事務所の田原亮自然保護官から、現在国立公園が抱える問題などについてお話をうかがった後、レンジャーさんから自己紹介にあわせ、主に活動してくださっている地域の様子や、日頃の活動の中で感じられて

いることなど、時間いっぱいまでたくさんお聞かせいただき、レンジャー相互の情報交換の場となりました。

午後は現地研修に出かけ、普段とは違った表情を見せてくれる、冬も間近な三瓶山を、残る植物を観察したり、地層の話をついでながらトレッキングしました。

県下各地での皆さんのご活躍が今後ますます期待されます。

大平山山頂にて



ふれあいの里 奥出雲公園のリニューアルについて

財団法人三瓶フィールドミュージアム財団 葭矢 崇司

平成16年春に再出発したふれあいの里奥出雲公園。人と自然をつなぐさまざまなサプライズを体験できるフィールドをめざして、島根県立三瓶自然館付属施設として新しいスタートを切りました。三瓶山の東約6kmに位置する当公園は、約180haもの広大な面積を有しています。その大部分がコナラやアカマツなどの二次林に被われて、いわゆる里山の自然を形作っています。

今日まで財団法人三瓶フィールドミュージアム財団では、国立公園三瓶山と三瓶自然館サヒメルをホームベースとして、「自然を知りそして守る」ということを主眼におきながら、広く県民のみなさんに自然体験ができる場を提供してきました。しかし、人と自然の関わりを考えるなかで、「自然を賢くつかう」というスタンスも重要になってきました。このような人と自然の上手な関係を考える上で、当公園は願ってもないフィールドであるといえます。



教育研修

今後当財団では、当公園の里山の自然を活かしながら、見て、聞いて、触れて、香りを感じ、時には自然の息吹を味わう、五感を使った自然体験を行える場を提供していきます。特に、学校団体を対象とした昆虫や植物標本の作製や自然の恵みを味わう自然観察など、いままで三瓶山周辺ではできなかった、より自然に密着した環境学習プログラムの開発を目指しています。また、家族連れなど一般のお客様に向けては、屋内でバーベキューを行える西日本初のグリルケビンや、ケビン、バンガローなどの宿泊施設、遊歩道や花壇など園内の整備を進め、自然のなかでゆったりとした癒しの時間をすごせる空間を提供していきます。

ふれあいの里奥出雲公園をご利用いただくことで、「自然を賢くつかう」という気持ちが少しでも広がればと願っています。



イベント「バンブーハウスをつくらう」

サヒメル特別企画展「月へのいざない」

かつて人類を月に送ったアポロ計画が終わって30年余り。今、わたしたちは再び月を目指しはじめています。もう月に行くことは、そう難しいことではないかもしれません。平成17年度サヒメルの特別企画展では、身近でありながら知らないことも多い「月」をとりあげます。月面生活の準備、サヒメルで始めてみませんか？

- 期間：4月22日（金）～9月4日（日）
- 会場：島根県立三瓶自然館サヒメル
- インターネット上ではウェブ版「月へのいざない」を公開中です。

<http://moon2005.com>

- 問い合わせ：三瓶自然館サヒメル 電話 0854-86-0500



グリーンワーカー事業～島根県に赴任して～

環境省自然環境局松江自然保護官事務所

自然保護官 田原 亮

「なんだか白くみえる浜だなあ。鳥のフンだろうか？」シーカヤックを漕ぎながら、入り江の奥にある目指す浜をみるとなんだか白く見えます。海鳥がたくさんいる岩場などはよくそのフンで真っ白になっていることがあるので、一瞬そう思ったのですが、浜に近づくとその白い正体が発砲スチロールの山であることに気づいたのです。

私は昨年4月から環境省松江自然保護官事務所に勤務することとなりました。業務は主に国立公園の管理で、大山隠岐国立公園の島根県区域（隠岐、島根半島、三瓶山）を担当しています。

赴任して初めて各地域の市町村に話を伺ったときに必ずでてきたのが、海岸の漂着ゴミの問題でした。台風や冬の季節風によって大量のゴミが海岸に打ち上げられ、ほとんど手を焼いているとのことでした。地域住民をはじめ漁協や学校関係の清掃活動、ダイバーによる海底清掃などの取り組みも行われているとのことでした。

環境省ではグリーンワーカー事業として、平成15年に隠岐の島町で隠岐自然倶楽部に委託し、海岸漂着ゴミ回収作業を実施しているほか、今春にも同様の事業の実施を予定しています。

グリーンワーカー事業とは、国立公園や国指定鳥獣保護区等の外来植物の除去、清掃活動、登山道の補修などの自然環境保全活動で、環境省が地域に密着した民間グループなどに委託して平成13年度から実施しているものです。

海岸漂着ゴミの回収を困難にしているのは、ガラス瓶やプラスチックなど多種多様なゴミが混在しており分別に手間がかかること、またタイヤなどは適切な処分に費用がかかること。それから大人の大きさほどもあるものや重量物のゴミもあって人力による搬出が難しく、重機や運搬トラック、場所によっては船などを必要とするため、搬出に費用がかかること。さらに、一度回収しても月日がたつとまた新たなゴミが流れつき1回だけでは終わらないことです。

処分に困って浜でプラスチック製品などを焼却することは、有毒な物質を発生させるため、浜は見た目ではきれいになっても環境そのものは汚されてしまいます。環境省では、浜をきれいにしたいと思っても搬出及び処分に費用がかかることからなかなか思うように清掃活動を実施できない団体に対して、グリーンワーカー事業でサポートしていきたいと考えています。



海岸の様子



漂着ゴミの標本